







1900

第九號

臣務局連帶  
平治六年保連書

大臣 	次官 	高級副官 	主務副官 	主計 	參事官 	主務局長 	主務課長 	主務課員 	主務局長 	主務課長 	主務課員 	主務課員 	主務課員 	主務課員 	主務課員 	主務課員 	主務課員 	主務課員 	主務課員 	主務課員 	主務課員 	主務課員 	主務課員 	主務課員 	主務課員 	主務課員 	主務課員 	主務課員 	主務課員 	主務課員 	主務課員 	主務課員 	主務課員 	主務課員 	主務課員 	主務課員 	主務課員 	主務課員 	主務課員 	主務課員 	主務課員 	主務課員 	主務課員 	主務課員 	主務課員 	主務課員 	主務課員 	主務課員 	主務課員 	主務課員 	主務課員 	主務課員 	主務課員 	主務課員 	主務課員 	主務課員 	主務課員 	主務課員 	主務課員 	主務課員 	主務課員 	主務課員 	主務課員 	主務課員 	主務課員 	主務課員 	主務課員 	主務課員 	主務課員 	主務課員 	主務課員 	主務課員 	主務課員 	主務課員 	主務課員 	主務課員 	主務課員 	主務課員 	主務課員 	主務課員 	主務課員 	主務課員 	主務課員 	主務課員 	主務課員 	主務課員 	主務課員 	主務課員 	主務課員 	主務課員 	主務課員 	主務課員 	主務課員 	主務課員 	主務課員 	主務課員 	主務課員 	主務課員 	主務課員 	主務課員 	主務課員 	主務課員 	主務課員 	主務課員 
--	---	--	---	---	--	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

冬身三合の孫  
小橋源義尚改正ノ件  
藤利高重部

九月三日

協議

大正十一年參謀總長、

三八式及三十年式銃用彈藥筒ノ設計書  
奉ノ道改正致及付与公認被也

追ノ別紙圖書ニ用濟通庚申成文

右是存本方回答ノ後查察付与嘉行

核除

送乙第三〇五十一號

九月七日

大正十一年九月七日

三八式及三十年式銃用彈藥筒ノ設計書  
ノ道改正致及付与公認被也

追ノ別紙圖書ニ用濟通庚申成文



0054

0053

お  
年  
ノ  
か

条に改定し、用務区長を平級

陸軍省 送乙第 二一九 號

九月十日

陸 査 察

今般三八式及三十年式銃用彈藥筒ノ  
判式ヲ改正シ三八式銃彈藥筒ト稱ス

但シ三十年式銃彈藥筒ハ在庫有限ナリ故  
ニ彈藥筒ト併用セシム

陸軍省 第五十四號 九月十日

技術部 査察部 連

ハ銃彈藥筒改正及三八式五三十年式銃ノ  
照星及照天改正ノ件建第 四〇號 建設部



通定ノ其案演制或必事四十三通及新  
旧両彈匣天距離比較表三十五通同案  
差出不已

但彈藥同ハ其ノ名稱ヲ三八式銃彈藥同ト  
スヘシ

右見出提出ノ上其案及リ表及

通條

高級師友ヨリ其案ハ其長、其案ハ其長、  
砲兵工廠提呈、其案ハ其長、其案ハ其長、  
一三八式銃彈藥同制式案 另解共 通

明治三十二年九月九日

九月十日



二三八式生兵銃判式及第四系中修正

通

二日 防銃判式及第三系中修正

通

右及送付等也

此等三八式生兵銃及防銃未成ノ分ハ右様ノ通

製他ノ既成ノ分ハ修正(表)ノ系ヲ表ナシ

也

兵部省及東京砲兵工廠ハ(内)ノ書記ニ作ル

方及計ニ製他ニ要スル費用ハ各銃製他ノ

事ニ付テハ費用ニテ又修正ニ要スル費用ニ事

費兵部強業費五年ノ義ト業ヲ表ナシ

東京砲兵工廠ハ(内)ノ書記ニ作ル

付書定本之約、請求五年後

陸軍省 陸普第 七五三 號 十月十三日

高橋少佐より無定本部長、東京、大阪、神戶、  
工務部、陸軍省、陸軍部、各所、  
東京、神戶、府、陸軍、台、陸軍、陸軍、  
陸軍、陸軍、陸軍、陸軍、陸軍、  
陸軍、陸軍、陸軍、陸軍、陸軍、

今般陸軍五四号ヲ以テ三八式實色、制式及心相成矣  
結果銃照尺、目盛モ改心初成矣、右改心照尺ヲ以テ  
三十年式銃實色ヲ射撃スル場合ニ別紙照尺及彈着距離  
比較表ニ射距離、終心ヲ要ス義、付書知相成度

新出石録

利尻島本所石録

長尾島石録



北島石録

七ヶ島石録

教習所石録

四

四上浪島石録

長尾島石録

三

北島石録

七ヶ島石録

教習所石録

四

其他

各

一

陸軍省陸普第七五〇號

十一月十三日

陸軍







1900

西義隆子准也

陸軍

添付書類目録

一新式銃彈採用集議ノ理由

一四〇式銃彈制式圖

一四〇式銃彈制式圖之解

一三八式歩兵銃照尺改正圖

一三八式騎銃照尺及照星坐改正圖

一四〇式銃彈ノ三十年式銃彈ノ照尺距離比較

陸軍



## 新式銃彈採用建議ノ理由

軍用小銃威力ノ大小ハ其彈道性能ノ優劣ニ基因スルモノニシテ成ベク低伸セル彈道ト強盛ナル活カトヲ以テ到達スル彈丸ハ乃チ大ナル威力ヲ有スルモノナリ此要求ヲ得セシメシニハ彈丸ノ速率ト重量トノ増加ヲ要スヘシ然レトモ速率ト重量トノ増加ハ直ニ銃ノ反撞力ヲ増大スルニヨリ是亦大ニ考慮ヲ要スヘキモノトス而シテ此ノ反撞力ノ増大ハ銃ノ操用ヲ滯滞セシメ從ツテ發射ノ速度ヲ減シ命中ノ精度ヲ害スルヲ以テ勉メテ減殺ヲ圖ルヘキモノトス(連發銃ノ採用ハ一層此ノ必要ヲ感セシメタリ)小口徑銃ノ創意ハ實

ニ此ニ胚胎シ之ニ因テ反撞力ヲ減少シツツ威力ヲ増進セシムルコトヲ得タリ(第一表参照)

小口径銃ノ創意アルヤ列國ハ一般ニ十一耗口径ノ銃ヲハ耗若ハ其ノ以下ノ口径ニ減少シテ速率増加ヲ圖リ(十一耗口径ニ於テハ初速四百五十米前後ナリシカハ耗若ハ其ノ以下ノ口径トナシタルカ爲ニ六百四十八米前後ニ増進シ而シテ彈丸ノ重量ハ口径ノ減少ト共ニ輕減シタレトモ横断面單位ノ重量ハ却テ増加シタリ)尚進シテ遂ニ六耗五口径トナリ彈丸横断面單位ノ重量ヲ減スルコトナク初速七百米以上ニ増加シ以テ著シク威力ヲ増進セシムルニ至レリ本邦現制式小銃

ハ此ノ理由ニヨリ制定セラレタルモノニシテ其ノ彈道性能ノ優秀ナルハ當時他ノ列國ニ採用シアリタル軍用小銃ニ比シテ遜色ナキトコロトス(第一圖第二圖参照)

ハ耗口徑ノ軍用小銃ヲ有スル獨佛兩國ノ如キモ口徑ヲ減少シテ彈道性能ヲ優秀ナラシムルノ利ヲ認メサルニアラス然レトモ財政上ノ關係ハ遽ニ之レカ改變ヲ實行スルニ難キカ如シ是ニ於テカ銃ノ制式改變以外ニ於テ種々ナル研究ヲ重ネ遂ニ一種ノ尖頭新彈ヲ創製シ獨國ニ在テハS彈(重量十瓦)佛國ニ在テハD彈(重量十二瓦)ト名ケ今ヤ之ヲ制式トシテ獨國現用九

十八年式銃若ハ佛國現用「ルベル」銃ニ採用スルニ至レ  
 リ(獨佛二國ノ外歐米列國ニ於テモ此種彈丸ニ關シ研  
 究試驗中ニアルコトハ諸雜誌ニ散見セリ)此新彈丸ハ  
 其ノ横斷面ノ中徑ヲ變スルコトナク重量ヲ輕減シタ  
 ルモノナルカ故ニ斷面單位ノ重量ハ著シク減少(S彈  
 ノ斷面單位ノ重量ハ二十瓦四)セラレタレトキ空氣ノ  
 抵抗力ニ關スル彈丸形狀ノ改良ト速率ノ著大ナル增加  
 (S彈ノ初速八百六十米)トニヨリ此ノ不利ヲ補ヒタリ  
 而シテS彈ノ彈道ハ著シク低伸ヲ來シ(千五百米以内  
 ニ於テハ本邦現制式銃彈ヨリ優秀ニシテ二千米ノ彈  
 道ハ略相等シ)活カモ亦從テ増大シタレトモ千米以上



ニ在リテ八十八年式銃彈ノモノニ及ハサルハ(横断面  
 ニ比シ)彈量過輕トナリタル結果ニ外ナラス(應急ノ爲  
 ニ制定シタル彈丸トシテ已ムヲ得サル所ナルヘシ(第  
 三圖参照)

小銃彈ノ研究如此ナルヲ以テ當審査部ニ於テモ三十  
 九年以來之カ改良ヲ企圖シ重量及形狀ニ關シ數種ノ  
 彈丸ヲ試製研究シ現制式小銃ニ試用シ數次ノ實驗ヲ  
 重不遂ニ彈頭部ノ形狀尖銳ニシテ重量九瓦(断面單位  
 ノ重量二十七瓦)裝藥量二瓦一五ナル新式銃彈ノ有  
 利ナルヲ認メタリ此ノ新式銃彈ノ彈道性能ハ現制式  
 銃彈ニ比シ優秀ニシテ彈道著シク低伸シ六百米ノ彈

道ノ最高ハ一米三七〇ニシテ二米五〇〇(騎兵ノ高サ)ノ  
 彈道高ヲ有スル射距離ハ七百五十米ノ速ニ達スルヲ得  
 テ活カモ亦増大セリ(第二表第四圖第五圖參照)  
 又此ノ新式銃彈ヲS彈ニ比較スルトキハ千米以内ニ於  
 テハ彈道ノ低伸畧相等シク千米以上ニ於テ著シク優越  
 スルノ結果ヲ呈シ而シテ活カニ至リテハ聊カ遜色アル  
 カ如キモ彈丸断面單位ニ於ケル活カハ八百米以内ニ於  
 テ相伯仲シ其ノ以上ノ距離ニ於テハ是亦著シク優越セ  
 リ從ツテ侵徹効カハ現制式銃彈ニ比シ著シク増大シ十  
 耗ノ軟鋼鈹ヲ百米ノ距離ニ於テ五耗ノ軟鋼鈹又ハ三耗  
 ノ特別防楯鋼鈹ヲ四百米ノ距離ニ於テ容易ニ貫通(S彈

ハ三百五十米ノ距離ニ於テ七耗ノ鐵釘ヲ貫通スト云フ  
 スルヲ以テ戰術上ノ要求ニ欠クルコトナシト確信ス(第  
 三表及第六圖参照)

若夫レ人馬ニ對スル殺傷効力ニ至リテハ骨部ノ創傷ハ  
 現制式銃彈ニ比シ輕易ナラス純軟部及臟器ノ創傷ハ稍  
 輕キカ如キモ要スルニ戰鬪ノ目的ヲ達シ得ルモノト確  
 認セラレタリ(別紙動物ニ對スル効力比較試驗成績書參  
 照)而シテ此ノ判決ハ單ニ創傷ツノモノニ就テ下シタル  
 モノナレドモ軍用小銃ノ威力ハ創傷ノ輕重ノミニ依ル  
 モノニアラスシテ之ニ因テ生シタル殺傷數ノ多寡ニ重  
 キヲ置カサルヘカラサルヤ論ナシ而シテ其ノ動物體純

軟部創傷ノ輕キニ傾ク一キ状態ハ十一耗口徑銃鉛彈ノ  
 八耗口徑銃被套彈ニ改變シタルトキ既ニ認知セラレタ  
 ルトコロナリ然レトモ此ノ小害アルノ故ヲ以テ速率ノ  
 増加ヲ制限シ彈道低伸ヲ斷念スルノ理由アリト認ムル  
 ヲ得サルノミナラス速率ヲ増加シ彈道ヲ低伸セシメテ  
 成ヘク多數ノ殺傷ヲ生セシメ以テ戰場ノ勝利ヲ收ムヘ  
 キ戰鬥上ノ要件ヲ無視スルヲ得サルヘシ  
 又其ノ創傷ノ經過良好ナルハ間接ニ補充ノ人員ヲ得ル  
 ニ等シトノ不利ヲ唱ヘ得サルニアラサルヘシト雖トモ  
 多數ノ傷者ヲ生シタルニ因リ後方衛生勤務ニ混雜不整  
 ヲ來シ之ヲ爲ニ傷者ノ手當ヲ志リ比較的輕易ノ創傷モ

重傷ニ陥ルヘキ場合少カラサルヲ知ラハ此ノ一事深ク  
論スルニ足ラサルナリ  
之ヲ要スルニ新式銃彈ハ總テノ點ニ於テ現制式銃彈ニ  
比シ威力頗ル優秀ニシテ制式ヲ改變シ之ヲ採用スルノ  
價值アルモノナルコトヲ確認ス

三十年式銃彈新式銃彈動物ニ對スル効力比較試驗成績書

生馬生豚各拾頭生犬貳拾頭及内臓ヲ除去シタル人屍  
參体ニ就キ施行シタル射擊試驗成績ヲ綜合セル斷案  
左ノ如シ

一、火彈ニ因スル單純軟部銃創ハ制式彈ニ因ルモノ

ニ比スレハ一般ニ輕ク其經過ハ稍短カキモ豫后ハ

大差ナシ

二、火彈ニ因スル骨傷銃創ハ近射及遠射ニ於テ制

式彈ニ因ルモノニ比シ輕易ナラス

三、火彈ニ因スル臟器銃創ハ制式彈ニ因ルモノニ比

シ輕キモノノ如キモ其豫后ハ大差ナシ

之レヲ要スルニ夫彈ノ殺傷力ハ制式彈ノ殺傷力ニ比ス  
レハ稍輕キモ戰鬪ノ目的ヲ達シ得ルモノト認ム

陸軍技術審査部御用掛

陸軍一等軍醫正醫學博士 芳賀榮次郎

陸軍一等軍醫正 鶴田禎次郎

陸軍二等軍醫正 中山森彦

明治四十年七月六日 陸軍三等獸醫正 太田楨太郎

陸軍三等軍醫正 秋山練造

陸軍三等獸醫正 今井 廉

陸軍一等軍醫 徳岡照敬

陸軍二等軍醫 池田秀男

比較、距離、照尺、弾

騎	銃
四〇式銃彈 照尺距離 米	三十年式銃彈 照尺距離 米
300	200
400	300
500	400
600	450
700	550
800	600
900	700
1000	800
1100	900
1200	950
1300	1050
1400	1150
1500	1200
1600	1300
1700	1400
1800	1500
1900	1550
2000	1650



## 四〇式銃弾、三十年式銃

歩 兵 銃	
四〇式銃弾 照尺距離 米	三十年式銃弾 照尺距離 米
300	300
400	350
500	450
600	500
700	600
800	650
900	750
1000	800
1100	900
1200	950
1300	1050
1400	1150
1500	1200
1600	1300
1700	1400
1800	1450
1900	1550
2000	1650
2100	1750
2200	1800
2300	1900
2400	2000

反撞力 變遷比較表

弾量 <sub>粒</sub>	銃量 <sub>粒</sub>	反撞力 <sub>兆米</sub>	弾丸 <sub>重量</sub> (粒) / 重量 <sub>粒</sub>	備考
31.1	4.1	3.90	30.3	一、 $E = \frac{1}{2} G_p V_1^2$ $V_1 = \frac{G' V' + 825 \sqrt{\mu} \frac{G_p}{G_p}}$ 二、反撞力ノ算出ニ次ノ二式ニ據ル 三、 $E$ ハ反撞力 $G_p$ ハ銃量 $V_1$ ハ後坐速 $G' V'$ ハ初速 $\mu$ ハ係數ニシテ 四、 $\mu=1$ 無烟火薬ニシテ $\mu=3$ 尋常火薬ニシテ 五、 $\mu$ ハ装薬量
25.	4.2	2.95	26.3	
25.	4.5	2.61	26.3	
27.	4.	3.33	28.4	
13.9	4.24	1.96	29.8	一、 $\times$ 印ヲ付スルモノハ「ヘブル」著最小口径第二卷第十五表及第三卷莖莖表中ヨリ拔萃シタルモノナリ
15.	4.	2.27	29.8	
14.5	3.8	2.35	29.6	
15.8	4.	2.46	31.3	
13.5	3.9	1.71	29.8	
15.5	4.2	2.03	30.8	
10.5	3.72	1.53	31.6	
10.5	4.	1.36	31.6	
12.8	4.	2.40	25.5	
10.	3.8	2.40	20.4	
9.	4.	1.27	27.1	

各種軍用銃 口径、初速、弾量銃量、  
及弾丸横断面單位

第一表

銃種	口径 <small>mm</small>	初速 <small>m/s</small>
英國71式銃(マルチニニ) x	11.43	416
佛國74式銃(グラ-)	11.	450
獨國71式銃(モーゼル) x	11.	440
十八年式村田歩兵銃	11.	437
英國88式銃(リーノット) x	7.7	670
佛國86式銃(ルベル) x	8.	630
獨國88-98式銃 x	7.9	640
澳國88-91式銃(カンリツ) x	8.	630
露國91式銃(三リー=ヤ) x	7.6	620
村田連發銃	8.	612
伊國91式銃 x	6.5	720
三十年式(三八式)歩兵銃	6.5	700
佛國86式銃 D彈ヲ用テ	8.	726
獨國88-98式銃 S彈ヲ用テ	7.9	875
三八式歩兵銃 新式彈ヲ用テ	6.5	765

式銃彈射表

彈量 9瓦  
 初速 765米  
 定起角 一分43秒

垂直標的=於ケル 公算躲避		危険界			
垂直米	水平米	騎兵米	步兵		
			立姿米	膝姿米	伏姿米
0.033	0.032	100.0	100.0	100.0	100.0
0.067	0.066	200.0	200.0	200.0	200.0
0.103	0.101	300.0	300.0	300.0	300.0
0.140	0.137	400.0	400.0	400.0	400.0
0.180	0.172	500.0	500.0	500.0	71.6
0.225	0.208	600.0	600.0	106.3	54.2
0.274	0.246	700.0	131.9	73.1	41.2
0.329	0.285	152.5	99.4	54.3	29.7
0.390	0.326	112.0	74.5	42.1	22.1
0.457	0.370	88.2	56.7	33.7	16.8
0.530	0.417	71.8	45.8	27.5	13.1
0.608	0.467	58.0	38.0	22.6	10.6
0.690	0.520	48.4	31.8	18.9	8.9
0.773	0.578	41.0	27.0	16.1	7.8
0.858	0.642	35.5	23.2	14.0	7.0
0.946	0.712	31.1	20.3	12.3	6.2
1.04	0.790	27.4	17.9	10.9	5.5
1.14	0.878	24.3	15.9	9.7	4.9
1.25	0.980	21.6	14.1	8.6	4.3
1.37	1.10	19.2	12.5	7.6	3.8
1.51	1.23	17.1	11.2	6.8	3.4
1.67	1.39	15.4	10.1	6.1	3.1
1.87	1.57	13.9	9.2	5.5	2.8
2.10	1.78	12.6	8.3	5.0	2.5

備考

危険界ハ騎兵ニ在リテハ二米五〇歩兵立姿ニ在リテハ二米六五同膝姿ニ在リテハ一米同伏姿ニ在リテハ零米五〇ノ高ヲ以テ算出ス

## 三八式歩兵銃 = 於 々 々 四

第二表一

射距離 米	射角 正切ノ千乗數	落角 正切ノ千乗數	經過時間 秒	落速 米	最高度 米	發點ノ最 高點ニ至 ル距離 米
100	1.41	0.9	0.14	700.3	0.02	51
200	2.41	2.1	0.29	639.3	0.09	104
300	3.54	3.6	0.45	582.0	0.23	158
400	4.85	5.5	0.63	529.0	0.48	214
500	6.36	7.9	0.83	480.6	0.86	271
600	8.08	10.9	1.05	437.3	1.37	330
700	10.02	14.6	1.29	399.2	2.00	390
800	12.22	19.1	1.55	366.7	3.01	450
900	14.71	24.5	1.83	339.8	4.17	511
1000	17.53	30.7	2.14	318.7	5.69	573
1100	20.71	37.6	2.46	302.0	7.85	636
1200	24.25	45.3	2.81	288.8	10.4	698
1300	28.15	53.6	3.15	277.9	13.0	759
1400	32.42	62.5	3.52	267.8	16.2	819
1500	37.07	72.1	3.90	258.4	19.9	878
1600	42.10	82.4	4.30	249.6	24.3	937
1700	47.51	92.6	4.71	241.2	29.4	995
1800	53.30	105.6	5.13	233.3	35.3	1052
1900	59.46	118.5	5.57	225.6	42.1	1109
2000	65.99	132.6	6.02	218.2	49.8	1166
2100	72.89	147.8	6.48	211.3	58.2	1224
2200	80.20	164.1	6.96	204.8	67.3	1282
2300	87.96	181.5	7.47	198.5	77.4	1341
2400	96.25	199.8	8.00	192.4	88.6	1402

式銃彈射表

彈量 9瓦  
 初速 720米  
 定起角 -2°52秒

垂直標的=於 公算躲避		危険界			
		騎兵 米	歩兵		
垂直 米	水平 米		立姿 米	膝姿 米	伏姿 米
0.029	0.029	100.0	100.0	100.0	100.0
0.058	0.058	200.0	200.0	200.0	200.0
0.091	0.091	300.0	300.0	300.0	300.0
0.128	0.128	400.0	400.0	400.0	95.1
0.168	0.168	500.0	500.0	143.3	61.6
0.210	0.209	600.0	164.2	92.3	43.5
0.254	0.252	700.0	115.5	62.6	32.3
0.302	0.297	135.0	85.2	48.1	23.9
0.355	0.348	101.7	65.0	38.4	18.8
0.413	0.404	79.4	51.3	31.0	15.0
0.480	0.468	64.5	41.7	25.2	12.3
0.557	0.543	53.3	34.7	20.8	10.3
0.655	0.632	45.0	29.5	17.6	8.8
0.782	0.735	38.6	25.3	15.1	7.6
0.951	0.854	33.5	21.9	13.2	6.6
1.12	0.989	29.3	19.2	11.6	5.8
1.30	1.14	25.8	17.0	10.3	5.2
1.49	1.30	22.9	15.2	9.2	4.6
1.70	1.47	20.4	13.6	8.2	4.1
1.94	1.66	18.2	12.1	7.2	3.6

備考 高ヲ以テ算出ス  
 危険界ハ騎兵ニ在リテハ二米五〇歩兵立姿ニ在リテハ一米六五同膝姿ニ在リテハ一米同伏姿ニ在リテハ零米五〇

## 三八式騎銃 = 於ケル四

第二表、二

射距離 米	射角 正切・千乗數	落角 正切・千乗數	経過時間 秒	落速 米	最高度 米	發射より最 高點に至ル 距離 米
100	1.85	1.1	0.15	658.6	0.03	51
200	2.98	2.4	0.30	600.6	0.11	102
300	4.25	4.1	0.48	546.8	0.28	156
400	5.70	6.3	0.67	497.2	0.58	212
500	7.39	9.0	0.88	452.5	1.04	269
600	9.34	12.3	1.11	412.7	1.67	328
700	11.51	16.3	1.36	378.6	2.48	388
800	13.98	21.2	1.64	349.8	3.48	448
900	11.82	27.1	1.94	326.7	4.71	509
1000	20.04	33.7	2.26	308.4	6.28	570
1100	23.56	40.9	2.59	294.1	8.34	631
1200	27.38	48.9	2.93	282.5	11.0	692
1300	31.47	57.6	3.29	272.2	14.1	752
1400	36.01	66.8	3.67	262.7	17.6	810
1500	41.00	76.6	4.06	253.7	21.6	867
1600	46.40	87.1	4.47	245.1	26.4	925
1700	52.13	98.5	4.89	237.0	31.9	983
1800	58.19	110.9	5.32	229.1	38.2	1041
1900	64.62	124.3	5.97	221.5	45.1	1099
2000	71.45	138.6	6.33	214.1	52.7	1157





第三表

備考	三八式騎銃							
	軟鋼板 厚十耗		特別防 插鋼板		軟鋼板 厚五耗		木材	
標的木材ハ厚八分ト稱スル羊乾ノ松板ヲ枳材内ニ重疊履迫シタルモノナリ	新式銃彈	三十年式銃彈	新式銃彈	三十年式銃彈	新式銃彈	三十年式銃彈	新式銃彈	三十年式銃彈
	凹陥ス 深サ約十耗	凹陥ス 深サ約十耗	凹陥ス 深サ約十耗	凹陥ス 深サ約十耗	凹陥ス 深サ約十耗	凹陥ス 深サ約十耗	凹陥ス 深サ約十耗	凹陥ス 深サ約十耗
	僅ニ破孔ヲ穿ツ	僅ニ破孔ヲ穿ツ	破孔ヲ穿ツ 破孔ハ不正形ニテ 横徑四耗縦徑六耗	破孔ヲ穿ツ 破孔ハ不正形ニテ 横徑四耗縦徑六耗	貫通ス 貫通孔ハ圓形ニシ テ徑約十耗	貫通ス 貫通孔ハ圓形ニシ テ徑約九耗	貫通ス 貫通孔ハ圓形ニシ テ徑約九耗	貫通ス 貫通孔ハ圓形ニシ テ徑約九耗
	凹陥ス 深サ約一耗	凹陥ス 深サ約一耗	凹陥ス 深サ約一耗	凹陥ス 深サ約一耗	凹陥ス 深サ約一耗	凹陥ス 深サ約一耗	凹陥ス 深サ約一耗	凹陥ス 深サ約一耗
	凹陥ス 深サ約五耗	凹陥ス 深サ約五耗	凹陥ス 深サ約五耗	凹陥ス 深サ約五耗	凹陥ス 深サ約五耗	凹陥ス 深サ約五耗	凹陥ス 深サ約五耗	凹陥ス 深サ約五耗
	凹陥ス 深サ約五耗	凹陥ス 深サ約五耗	凹陥ス 深サ約五耗	凹陥ス 深サ約五耗	凹陥ス 深サ約五耗	凹陥ス 深サ約五耗	凹陥ス 深サ約五耗	凹陥ス 深サ約五耗
	凹陥ス 深サ約五耗	凹陥ス 深サ約五耗	凹陥ス 深サ約五耗	凹陥ス 深サ約五耗	凹陥ス 深サ約五耗	凹陥ス 深サ約五耗	凹陥ス 深サ約五耗	凹陥ス 深サ約五耗
	凹陥ス 深サ約五耗	凹陥ス 深サ約五耗	凹陥ス 深サ約五耗	凹陥ス 深サ約五耗	凹陥ス 深サ約五耗	凹陥ス 深サ約五耗	凹陥ス 深サ約五耗	凹陥ス 深サ約五耗

0084



本館  
庶務第四一號二

明治四十年九月十日

參謀總長男爵奧保繁

陸軍大臣寺内正毅殿



送乙第三〇五一彈ヲ以テ三八式及乙  
十年式銃用彈藥筒ヲ改正ノ件  
。自恨識、趣異存無之、小書及  
回奉少也  
送乙別式圖面及返戻帳

軍砲

陸軍技術部 第四 五號

明治四十年七月七日

十月八日

陸軍技術審査部長男爵有坂成章

陸軍技術部審査部長有坂成章

三ノ式歩兵銃改正書外主査者有坂

章

有坂成章三ノ式歩兵銃改正書外主査者有坂

章

手記

三ノ式歩兵銃

有坂成章







通原	直江守右衛門尉之定也為長	二思天匪難強着匪親上比鞍表 以十四部	右甲牙一四海 為已 及五 本 系	軍省 陸普第一一〇五	十月四日
----	--------------	--------------------	------------------	---------------	------

陸軍省第一〇四號

十月十六日

明治三十年十一月十五日

陸軍兵器本廠長押上

陸軍省副官立花小一郎殿

書類追増方件

陸軍省七五四年三月照尺距離ト彈着巨离ト比較表  
 三葉送付相成ニ處右ニ本廠検査部并ニ管内兵器本廠  
 配賦、如ク追増方取計相成及申進ス

陸軍

閱

0600

陸軍  
本廠

名簿 分 號

十月十日

明治二十一年十月十五日

陸軍大臣官房印中

陸軍兵器本廠印

至急 圖面不足ニ就テ

四月十日付陸軍省第七五三号ヲ以テ送附成り左記  
圖面ニ書面ニ「七七通」ト有之ルハ「實際ニ七四通」  
無之ニ付配布ニ差支素業ニ至リテ「七七通」宛ニ送附大

成友

- 一 一式銃彈箱筒制式圖 圖解書
- 一 一式銃彈筒制式圖 圖解書
- 一 一式銃彈筒制式圖 圖解書
- 一 一式銃彈筒制式圖 圖解書



